

ESD レポート

Education for Sustainable Development

vol. 15

2008 夏

2008年8月20日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

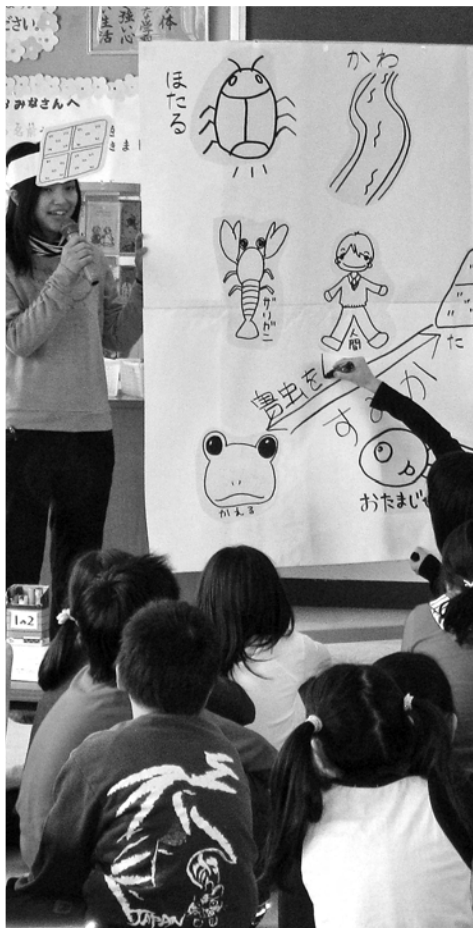
ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」——それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。

シリーズ **学びの場をデザインする**

CSO ラーニング制度

木を植えるより、 木を植える人を育てたい

損保ジャパン環境財団



損保ジャパン環境財団の「CSO ラーニング制度」は、企業が大学生・大学院生を環境分野のCSOへ派遣する制度のひとつであり、CSOでのインターンをとおして若者たちが社会的な課題や市民社会のあり方について考え、より広い視野を持って社会へ巣立っていくことを支援しています。同時に、学生を受け入れるCSOにとってマンパワー支援となることも意図しています。「木を植える人を育てたい」——企業が社会貢献という文脈で実践するESDのひとつの姿がここにあります。

<キーワード>

企業の社会貢献としてのESD
インターン制度

<関係機関>

企業、CSO、学生、大学

<活動資金>

企業、社員が拠出するファンドにて運用



左上：自主企画として、小学校で授業開催（関東）

右上：ふりかえり（全国合宿）、中央：田んぼで（関東）

右下：合宿での議論（愛知）

※ CSOとはCivil Society Organizationの略で、「市民社会組織」を意味し、NGO、NPOと同義です。

社会の問題を自分ごとにする制度

今年で9年目を迎えたCSOラーニング制度は、60名程度のインターン生を全国4地区（関東、関西、愛知、宮城）のCSOへ派遣しています。毎年希望する学生も多く、CSOによっては4～5倍の倍率になるといいます。キックオフミーティングを皮切りに、派遣されたインターン生は、CSOに8ヶ月間（120～250時間）派遣され、それぞれのCSOの業務に実際に関わります。奨学金制度を希望した学生には、損保ジャパン社員の寄付金である「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」から1時間あたり800円が支給されます（大学の単位取得制度を利用する場合は奨学金の支払はなし）。つまり、社員一人ひとりが次代を担う世代の人材育成を支援していることになるのです。

派遣された学生たちは、それぞれのCSOが行っている事業に実際に関わります。仕事の内容は、CSOによって異なりますが、イベントやセミナーの手伝いをしたり、地域の人と一緒にCSOの活動に参加したり、子どもたちへ環境教育を行ったり、事業の企画や運営にたずさわることもあります。このように、実際のCSOでの仕事を通じて、学生たちは、社会の課題、問題解決型の考え方、行動の起こし方、コミュニケーションのとり方など、市民として必要な知識、マインドやスキルを身につけていきます。また、毎月1回行われる「定例会」という地区ごとの参加者同士のミーティングがあります。このミーティングの運営方法は事務局がすべてを段取りするのではなく、テーマや進行方法など学生たちの考えを採り入れ、主体的に「学びの場」を創造するように設計されています。定例会でのディスカッションでは、より広いCSOの活動や経験について話し合い、活動を通じて得た心の動き、迷い、希望などをゆっくりと共有していくそうです。

それ以外にも、地域を越えた交流や全国ミーティング、OBOGとの同窓会など、地域や世代を超えた交流が定期的に学生たちへ刺激を与えます。また、茨城県霞ヶ浦の無農薬稲作を行っている田んぼでの共同作業や、学生たちが自主的に企画する合宿では、農作業や一晩じっくりと今後の生き方やCSOの活動を通じて学んだことを話し合うそうです。



菜の花植え付け（関西）

さらに、地区ごとに自主的な活動を行う場合もあります。その内容はもちろん学生たちが自分たちで話し合い、社会に対して自分たちは何をしたいのか、何ができるかを考え、相談し、合意し、行動に移していきます。まさに、その過程は社会起業家の入門OJTとなっています。

つながりを実感することが若者を育む

このように8ヶ月間という期間における経験は、単にインターンとしてCSOの仕事を経験するだけではなく、その経験をさまざまな人と共有し、多様な価値観に触れ、お互い刺激しあい、また自分たちも主体的に行動を起こしていきます。そしてそのくりかえしが、ゆっくりと、そしてしっかりと学生たちを育てていると感じます。

この制度の最大の特徴は、さまざまな「つながり」を実感できることだと事務局長の富沢泰夫さんはおっしゃっています。CSOでのインターン活動は、学生にとって「社会とのつながり」を実体験します。インターン生同士で活動を報告しあう定例会や合宿、自主企画を通じて「横のつながり」という絆を強めていきます。またOGOとの「同窓会」は、社会に出た先輩たちを、身近な相談者として、近い将来の目標・道しるべとして意識しながら、「縦のつながり」をつくっていきます。

さらに、田んぼや菜の花畑といったフィールドでの活動で、「自然やくらしと自分のつながり」にも気づきがあるでしょう。これらの縦横斜めの「つながり」を自分自身の手でつむぐ8ヶ月が、多くの若者にとって勇気となり、未来への希望となり、社会を担う意志を育てているのだと思います。

（取材報告：佐々木 雅一）

活動をふりかえれば

8ヶ月を終えて

顔も名前も知らないところから始めて8ヶ月。お互いの意見を受け入れ、磨きあいながら大きく成長できたと感じています。私たちに信じて仕事を任せてくださったCSOの職員の方々、そして私たちの活動に関わったすべての人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。私たちの活動はこれで終わりではありません。ホームページや環境教育の授業をはじめとする活動をこれからも続けていきます。CSOラーニング制度で得た学びを胸にそれぞれの方法で社会に貢献する人材になるべく、まい進していきます。

（2007年インターン生 山本理恵）



そして、おれは……



この制度をとおして変わったこと、それは価値観！僕はこの制度に応募するまで、「自分ひとりが環境のことを考え、行動しても、他の大多数の人が何もしないなら、社会が変わらないから、意味なんてない!」と思っていました。でもこの制度をとおして環境のことを熱く考えている人たちに出会い、考えが変わりました。

自分ができていることを、それがどんな小さなことでもやる！それが大事だ思うようになりました。僕のしたほんの些細な行為でも、それを見て感動する人はいると思う。その人が同じように自分を変えたら……そして、そんな人がもっと増えたら……。そうして世界は変わっていくと思います。自分にできること。どんな小さなことでもやること。だって、こんなにも熱い仲間がいるんだからね。

（2007年インターン生 山下一匡）

財団法人 損保ジャパン環境財団

住所：〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1
 電話：03-3349-4614
 URL: <http://www.sjef.org>
 E-mail: office@sjef.org

ESD-Jの2008年度は、ESD が見える形にする 1年

このコーナーでは、ESD-Jが進める主要プロジェクトやその成果を紹介し、ESD-Jが何を目指し、何に取り組んでいるのかを紹介していきます。1回目は「ESDの10年」中間年に向けた2008年度の活動を紹介します。

今年度は、これまでの5年間で蓄積してきた成果を元に「ESDの具体的な姿」「それを推進するためのしくみ」について理論化、政策化し、提言としてまとめる「ESDが見える形（理論化、政策化）にする1年」と位置づけています。具体的には、ESDの内容、しくみ、プロセスを抽出し、ESDの実践に役立つノウハウ・考え方・ツールなどをとりまとめた『地域のESD実践ハンドブック作成』および、ESD-Jが目指すESDの10年の達成目標と、それを実現するための取組み、しくみ、施策等を策定する『ESD推進のための政策提言の取りまとめ』の二つの事業が主軸となります。双方ともプロジェクトメンバーで検討した素案をもとに、全国5箇所で地域ワークショップを開催し、地域の方々にも議論に参加いただき、成果としてまとめます。それら提言は円卓会議や政府へ働きかけるのはもちろん、3月にドイツで開催される中間年国際会合を通じて、国際社会へもアピールしていきます。

2008年度事業計画

地域ネットワークの形成および交流支援事業

- 1) 『地域のESD実践ハンドブック』作成
- 2) 環境省ESD促進事業



14のモデル地域の取組みをもとに、ESDの特徴的なプログラム、ESDを推進するしくみなどを抽出し、「地域のESD推進のヒント集」を作成

- 3) ESD全国研究集会（全国ミーティング）の開催
- 4) 自治体におけるESD推進（再掲：研修）
愛知県安城市、愛媛県内子町、沖縄県やんばる三村などの事業に協力し、自治体が主体的に進めるESDのあり方を探る

政策提言および調査研究事業

- 1) ESD推進のための政策提言の取りまとめ
- 2) G8に向けた提言活動



G8サミットに向けて、持続可能な社会づくりへの各国のコミットメントとESDへの取組みを促す提言をアピール

- 3) 「ジャパンレポート」作成（再掲：国際）
AGEPP報告書、G8サミットへの提言、国内優良事例を踏まえ、「ジャパンレポート」を作成し、ESDの10年後期に向けた政策を国際社会へアピール
- 4) 2010年の国内実施計画見直しに向けた提言活動
- 5) 国会議員との勉強会の実施

国際ネットワーク推進事業

- 1) アジアESD推進事業（Asia Good ESD Practice Project:AGEPP）



アジア各国のESD実践事例を6カ国語webサイトで共有、またアジアにおけるESDの特徴や共通性を抽出し書籍（日英）を発行

- 2) 英文ウェブサイトの充実
- 3) 「ジャパンレポート」作成（再掲：政策）
- 4) ESD-J国際戦略（案）のとりまとめと関連機関とのコミュニケーションの緊密化

研修および普及啓発事業

- 1) 自治体におけるESDおよび持続可能な地域づくり研修の開発・実施（再掲：地域）



- 2) 企業向けESD・CSR研修の開発・実施
- 3) ESDの担い手を支えるしくみや育成方法の調査と検討
- 4) ESDカフェの開催
ESDにつながる「学びの場」や「国内外の実践」をゲストで紹介いただき、持続可能な社会について、参加者と一緒に学び、考えるカフェを開催
- 5) 出前講座・研修・ワークショップの開催

情報収集・提供および出版事業

- 1) ウェブサイトの充実
- 2) メールマガジンの充実
- 3) 「ESDレポート」の継続発行
- 4) 「ESD-J2008活動報告書」の発行
- 5) 『地域のESD実践ハンドブック』をベースとしたテキストブック2発行（再掲：地域）
- 6) 「市民版ESDジャパンレポート」発行（再掲：政策、国際）



2008年事業計画およびその経過は、ウェブサイトの「ESD-Jの活動」にて随時紹介しています。

アジアの視点からG8サミットへ提言

ESD-Jは、アジアESD実践交流事業（AGEPP）を進めてきたNGOおよび国際機関・組織の代表者とともに、G8洞爺湖サミットにむけた提言を作成しました。提言作成に当たり、4月30日～5月3日の日程で、国際会合「《アジアからG8サミットへ》持続可能な社会へむけた市民組織からの提言」を開催しました。市民から見たESDの視点を整理し、提言を作成したほか、公開フォーラムを開催し「提言」に対して幅広いご意見をいただきました。またこの提言は、背景説明とともに冊子として取りまとめました。外務省、環境省を訪問し提言をアピールしたほか、各関係省庁、議員、メディア、各国大使館へリリースとともに配布しました。また、7月に札幌で開催された市民サミット2008では、展示ブースを設け、提言とアジアのNGOによるESDの取組みを紹介しました。



G8 サミット成果文書に ESD が盛り込まれる



今年 7 月に開催された G8 サミットおよび関連会合の成果文書として公表された、ESD に関連した記述を紹介いたします。ESD の 10 年の提案国として、国際的な文書に ESD を盛り込んだということはひとつの成果だと思います。しかし、大切なことは旗振り役として恥ずかしくない横断的な取組みを政策として進め、その動きを国内外に発信することです。ESD-J は来年 3 月の「ESD の 10 年中間年国際会合」に向け、上記 2 点に急ピッチで取り組むことを、円卓会議などを通して働きかけていきます。

..... G8 サミット成果文書 (www.g8summit.go.jp/doc/index.html) より

【首脳宣言 (7 月 8 日)】

「環境・気候変動」

持続可能な開発のための教育

39. 我々は、より持続可能な低炭素社会の実現につながるような国民の行動を奨励するため、持続可能な開発のための教育 (ESD) の分野におけるユネスコ及びその他の機関への支援及び、大学を含む関連機関間の知のネットワークを通じて、ESD を促進する。

ほかにも「開発・アフリカ」の「教育」における 48 項、49 項において、持続可能な開発と成長にとって教育の重要性や万人のための教育 (EFA) およびファスト・トラック・イニシアティブ (FTI) への支持が表明されました。

【議長総括 (7 月 9 日)】

2. 気候変動

.....我々はまた、森林、生物多様性、3R (廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化) 及び持続可能な開発のための教育 (ESD) といった環境問題に取り組むことの重要性を認識した。

そのほか、環境大臣会合の議長総括では「人材育成・持続可能な開発のための教育 (ESD)」の項目が盛り込まれ、6 月 9 日発表の『福田ビジョン「低炭素社会・日本」をめざして』においても、低炭素社会と持続可能な社会について学ぶことの必要性に言及されました。

私たちが ESD-J に入ったわけ

「現実的な課題に取り組む」という言葉に惹かれて

カリタス女子中学高等学校

「ただひとつの正解をあらかじめ用意しない」「現実的な課題に実践的に取り組む」という言葉に惹かれ、本校では今年度より ESD-J の団体会員となりました。1 年目の取組みとして、高校 1 年文科コースでの「理科総合 B」の前期テーマとして、<ロール・プレイング洞爺湖サミット> の授業を行ないました。内容としては DVD「不都合な真実」の利用、インターネットを使って情報収集、ワークショップ形式での授業、グループ・ディスカッションなどです。まとめとして生き物の代理となり各自の主張を 1 枚のポスターにまとめたものを作成し、ポスター・セッションを行ないました。このような授業をとおして、知識を得るだけでなく、実践的に理科と関わってくれる生徒に育ってほしいと願っています。



ポスター・セッション会場での集合写真→



- 団体会員** 正会員として 2 団体が新たにメンバーに加わりました。
 - 立教大学 ESD 研究センター <http://www.rikkyo.ne.jp/grp/esdrc/index2.html>
 - 水を考える女性会議 <http://mizujosei28.org/>
- 個人会員** 正会員 10 名、準会員 12 名が新たにメンバーに加わりました。
 - 東北地区 2 名、関東地区 14 名、中部地区 2 名
 - 関西地区 2 名、四国地区 1 名、九州地区 1 名



はじめまして。7 月に事務局に入った齋藤です。東京は暑いですが、夏なので仕方がないのですが、夜でも何となく暑さが残っているような違和感を覚えます。気のせいでしょうか？東京の夏は、昼と夜の温度差が、私が育った田舎より小さく感じます。その違いが涼しいはずの夜でも何となく暑いと感じさせるのでしょうか？そう考えると生き物たちはもっと違和感を抱いているのでは、と思いつつながら職場と自宅を往復しています。(齋藤浩司)

2008 年 4 月から 7 月の活動報告

- 4 月 17 日 経団連主催 企業と NGO との交流会へ出席
- 4 月 19 日 立川エコパートナー養成講座 講師派遣
- 4 月 29 日 -5 月 3 日 G8 への提言クローズドセッション
- 5 月 3 日 公開国際フォーラム「アジアから G8 サミットへ」開催
- 5 月 13 日 全国 EPO 会議出席
- 5 月 19 日 環境省を訪問し、G8 への提言をアピール
- 5 月 19 日 環境大臣会合に向け、メディア、議員、省庁に提言をアピール
- 5 月 21 日 安城市 環境首都を目指す ESD 職員研修 < オリエントেশョン >
- 5 月 31 日 第 1 回理事会開催
- 6 月 5 日 日能研 ESD 講座開催
- 6 月 9 日 環境教育担当者会議 EPO 研修へ協力
- 6 月 9 日 外務省を訪問し、G8 への提言をアピール
- 6 月 11 日 環境 goo と ESD 地域情報連携スタート
- 6 月 17 日 安城市 ESD 職員研修 < 環境 >
- 6 月 17 日 東京と環境教育研究会総会にて講演
- 6 月 18 日 ESD 推進議連幹事会へ出席
- 6 月 24 日 情報 PT ミーティング開催
- 6 月 28 日 理事懇談会開催
- 6 月 28 日 2008 年度総会開催
- 6 月 29 日 第 1 回地域コーディネーター会議
- 7 月 3 日 G8 サミットに向けメディア議員、省庁にむけ提言をアピール
- 7 月 4 日 環境省 ESD 促進事業 雲仙 ESD 協議会出席
- 7 月 6-9 日 G8 NGO フォーラムへ出席
- 7 月 21 日 ボーイスカウト 国際環境スカウトフォーラムへ出席
- 7 月 22 日 政策提言 PT ミーティング
- 7 月 23 日 安城市 ESD 職員研修 < 多文化共生 >
- 7 月 24 日 ESD 関係機関連絡会議へ出席
- 7 月 29 日 -8 月 1 日 茨城県教員研修 講師派遣
- 7 月 30 日 環境省 ESD 促進事業 地域担当者会議開催

特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議 (ESD-J)

<http://www.esd-j.org/> e-mail : admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F

TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中 : 正会員 (10,000 円)、準会員 (3,000 円) 詳しくは HP をご覧ください ●

